

IntelのWired for Management構想について(7)

WfMで実現する世界

IntelのWired for Management (以下WfM)によって、管理者からは管理し易いシステムを構築することができます。クライアントは、Net PCのように基本的に拡張性がなく、プログラムを自由にインストールすることができなければ、管理者側で完全に管理できるわけですから、自由度が制限される分管理コストは最小にすることができます。

まず、BIOSについては、今までのパソコンが導入後BIOSを変更する、バージョンアップするなどのことはほとんどありませんでしたが、今後は、サポートするインターフェースの変更などで、バージョンアップの必要が出てくる可能性も考えられます。

OSについては、現在のWindows 95、今年発売されるであろうWindows 98、また、Windows NT 5.0など、大きな変更もあり、OS R2.0、2.5などの一部の変更なども考えられます。また、設定内容によっては環境が異なるために動作が不安定になるなどのことが考えられます。

アプリケーションについては、バージョンアップの対応によってのさまざまな状況が考えられ、それがアプリケーションの動作にいろいろな影響を与えることが考えられます。

WfM構想をもとにシステムを構築することによって、各クライアントの状態を管理し、一定に保つことができるようになります。BIOSやアプリケーションなどがアップデートされたときにも、管理者は各クライアントを順に回ってアップデートする必要はなく、遠隔にあるクライアントに対しても、使用していない、例えば夜間に自動でアップデートすることができます。この時、WfM構想に含まれるリモートウェークアップ機能が使われます。

Net PCの場合は、確かにFDDなどがついていないわけですから完全に管理者側で管理できますが、WfM機能を持ちながらFDDをも持つパソコンであった場合、その使用には限定をつけなければ十分な管理はできないこととなります。限定としては、自由なアプリケーションのインストールの禁止や、インストールしたアプリケーションの消去に対する無条件の承認などです。つまり、自由にインストールすることはできず、入れたアプリケーションはいつ消去されるかわからないこととなります。こうなるとパソコンという概念からは多少外れるものになるかもしれませんが、自由にすることを許可するということは、管理する側からすれば、管理できるなることとなります。

TCOの削減は、パソコンを以前の端末に戻してしまいますこととなるかもしれませんが、これからのシステムを考える場合、妥協すべき問題とも考えられます。

(情報誌トピックス)

○ 目録オンライン 2月16日号

特集 新発想のデータウェアハウス

→データをそのままデータベース化し、意思決定に活用しようとするシステムをデータウェアハウスと呼ぶが、何でもできるとしたこれまでのシステム構築から、活用目的を明確にした目的志向のシステムへと発想の転換が図られている。

トレンド 営業に革命をもたらすリモートアクセス

～横河電機の直行直帰～

→営業担当社が形態パソコンを持ち歩き、リモートアクセス環境を整えることによって、無駄な移動時間(出社など)を省くことによって営業活動に革命をもたらそうとしている。

○ 目録オンライン 2月23日号

特集 環境対策 ～消費者がメーカを峻別～

→メーカの環境対策が変わりつつある。これまでのように規制遵守から一歩進んだ対策を取る、競争の姿勢が必要となる。環境対策がメーカの顔になる。

解説 脱PCへ、動き出すデジカメ

→順調に立ち上がったデジカメの市場。100万画素のカメラが10万以下となり、高画質が手に届くところまできた感がある。しかし、ユーザの9割がパソコン所有者である状況を打破するには、これまでのスチルカメラと同等の利用環境を提供する必要がある。

○ 目録パソコン 2月23日号

特集 「デファクトスタンダード」の基礎知識

→事実上の標準機:「デファクトスタンダード」。マイクロソフトのOS、インテルのCPUなどはもちろんのこと、サウンドボード、SCSIボード、LANボードなどといったものにも「デファクトスタンダード」はある。「デファクトスタンダード」ではない製品とどう違うのか、ユーザが知っておくべきでファクトの意味を特集。特に、規格に含まれる余裕(マージン)の違いによって、俗にいう“相性”は存在する。

特集 「ノーツ」で極める自分だけの情報整理術

→利用者が400万人を超えた「ノーツ」をメモや書類などの身の回りの雑多なデータを整理するための道具として使うにはどうすればよいか

○ 目録パソコン 3月号

特集 パソコンの寿命は5年

→高性能になったパソコン。できるだけ今のパソコンを使いつづけるにはどうすればよいか。メーカの想定使用年数は5年。しかし、万が一壊れてしまったときに代替りのものがすでに販売されていないことはある。

解説 独自の世界から完全に脱皮したNotes/Domino R5

→ N o t e s は順調に出荷数を伸ばしているが、グループウェア市場に飽和感も出てきている。今回メールアドレスや文書形式がすべてインターネットが標準となり、今後は中小企業への展開を図っている。

○ A S C I I 3月号

特集 最小投資で作る最強環境

→ H D D の増設、ディスクユーティリティの活用など、最小の投資で作れる快適パソコン環境の作り方。

特集 決定！最新日本語 I M E の覇者はこれだ！！

→ M S - I M E 9 8 の登場、A T O K 1 1 の登場など現在の I M E (かな漢字変換システム) の内容と徹底変換テスト。

○ S U P E R A S C I I 3月号

特集 岐路に立つ I n t e r n e t インフラストラクチャ

→ 普及したインターネット、その中で問題となってきた電話料金の安価とは言えない状況。C A T V など次世代の高速な伝走路を手に入れようとしているインターネットの今後の可能性の広がりについて。

レビュー システム化各 1 5 0 万円の P C サーバ選び

→ 予算 1 5 0 万円で購入可能なファイル/プリンタサーバに利用するサーバの徹底比較。a p r i c o t F T 8 0 0 0 モデル 2 4 0 など 1 2 機種と比較。

○ A S C I I D O S / V 3月号

特集 1 0 0 メガパニック！

→ 外部周波数 1 0 0 M H z への対応が 4 月とうわさされる中ですでに発売された対応チップセットを中心に特集

特集 インターネット物欲サーフィンのススメ

→ インターネットでのパソコン関連商品の購入について。劇安ショップから電子決済の現状まで。

スクープ W i n d o w s 9 8 日本語 β 版でわかった意外な真実

→ 3 月に配布される日本語 β 版を使ってみての感想。マイナーチェンジに近い W i n 9 8 。完成度をあげたインターフェース、見直しされたパフォーマンス、強化されたツール群など、なかなかでない W i n 9 8 の特集

○ D O S / V m a g a z i n e 3月15日号

特集 総合検証！P C ケース最前線' 9 8

→ 自作するのに必ず必要なケース。ミニからフルタワーまでのケースの特集

特集 サウンドシステムの研究

→ 快適な P C サウンド環境を作るには。P C サウンドの基礎知識から周辺機器まで。